笛吹高校　教科シラバス

令和２年度

学校教育目標

◎自己の可能性を信じ、何事にも主体的にチャレンジする生徒の育成

◎広い視野を持ち、地域社会の形成にすすんで参画できる生徒の育成

普　通　科

笛吹高校の３年間で身に付けてほしい力

・自己の進路目標を積極的に見つけ出し、その目標の実現に向けて努力を行う強い心

・日々の授業に主体的に参加し、他者とともに学びを楽しむ態度

・社会の変化に対応できる資質・能力と自ら学び続ける態度

１年次の目標

・学習することの意義を、自己の将来を見据えて考える
・授業に主体的に取り組み、他者とともに学ぶ態度を身につける
・家庭学習により基礎・基本を定着させる学習習慣を確立する

２年次の目標

・オープンキャンパスなどを通じて具体的な進路目標を設定する
・自己の興味・関心と社会とのつながりを理解し、自己の専門性に合わせて学びを深める
・各科目の授業を通じて、多様な資質・能力を身につける

３年次の目標

・進路目標を実現するとともに、将来にわたって自ら学び続ける態度を身につける
・主体的に学びに向かい、他者とともに学びを楽しむ態度を身につける
・各科目の授業を通じて、社会で生きる資質・能力の伸長を続ける

学ぶ皆さんへの助言・アドバイス

普通科で一番大切なことは、「自分の可能性を広げること」です。自己と向き合い、将来を見つめ、自分の進路実現に向かって努力しましょう。
進路目標の決定には、自分から行動すること（主体性）が重要です。様々なことに挑戦して、自分は何がしたいのかを見つけましょう。

皆さんの可能性を広げるため、授業と家庭学習で何ができるかを明確にすることが大切です。
【 授　業 】仲間とともに学びあうことで身につけられる思考力や判断力、社会性、人間性を高める
【家庭学習】基礎・基本を定着させるとともに、自分から学びに向かう姿勢を身につける

	教科	科目	
1	国語	国語総合　現代文	
2	国語	国語総合　古典	
3	地理歴史	世界史Ａ	
4	地理歴史	日本史Ａ	
5	数学	数学Ⅰ	
6	数学	数学Ａ	
7	理科	物理基礎	
8	理科	生物基礎	
9	保健体育	体育	
10	保健体育	保健	
11	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	
12	外国語	英語表現Ⅰ	
13	家庭	家庭基礎	
14	芸術	音楽Ⅰ	選択
15	芸術	美術Ⅰ	選択
16	芸術	書道Ⅰ	選択

令和２年度　年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	国語　　国語総合（現代文）	単位	2	履修区分	必履修　・必修　・選択
対象学年・類型・ｺｰｽ	１年　普通科・総合学科				
使用教科書	『 標準国語総合　』（第一学習社）				
副教材	新国語便覧（大修館書店）・　常用漢字パーフェクトクリア（尚文出版）				

目標とする 生徒の将来像	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成する。伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深める。国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
評価の観点	1　【関心・意欲・態度】国語への関心を深め、国語を尊重して向上を図ろうとしているか。 2　【話す・聞く能力】目的や場に応じて効果的に話し、的確に聞き取ったりしているか。 3　【書く能力】目的に応じた適切な文章を書き、自分の考えをまとめ、深めているか。 4　【読む能力】文章を的確に読み取り、自分の考えを深め、発展させているか。 5　【知識・理解】言語の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けているか。

学期	期　間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法 ※テスト＝定期考査含	自己評価
1学期	**第１回定期試験** **６／８～**	・世界は謎に満ちている ・水の東西	・好奇心の大切さに目を向け、高校生活への抱負を新たにする。 ・筆者の主張を的確に読み取り、自分の考えをまとめる力。 ・論理の展開や要旨、筆者の主張を的確にとらえる。読解力	①授業態度・ノート ②話し合い ③発表 ④テスト ⑤漢字テスト・問題集	A B C A B C A B C A B C A B C
2学期	**第２回定期試験** **９／２４～**	・詩　３編 ・羅生門 ・短歌句	・作品を深く味わう。鑑賞力 ・登場人物の心理の変化をとらえ、そこから人間についての洞察を深める。読解力、伝える力 ・作品を深く味わう。想像力	①授業態度・ノート ②話し合い・相互評価 ③作文・創作 ④テスト ⑤漢字テスト・問題集	A B C A B C A B C A B C A B C
	第３回定期試験 **１１/３０～**	・黄色い花束 ・卒業ホームラン ・コミュニケーションは創造的に	・記録分の読み方を学び、「平和」への考察を深める。読解、考察力 ・物語の時間や場所の動きを理解し心理を読み取る。読解力 ・人間らしい心の通うコミュニケーションについて考え、日常に生かす。読解力	①授業態度・ノート ②話し合い ③発表 ④テスト ⑤漢字テスト・問題集	A B C A B C A B C A B C A B C
3学期	**第４回定期試験** **２／１９～**	・科学は正しいか ・鏡	・現代的なテーマに触れ、多角的なものの見方を学ぶ。読解力 ・登場人物の性格、心理、行動を的確にとらえる。登場人物の感情について話し合う。読解力、伝える力	①授業態度・ノート ②話し合い ③発表 ④テスト ⑤漢字テスト・問題集	A B C A B C A B C A B C A B C

検定資格（時期）	漢字能力検定を年に３回、校内で受検できる機会を用意する。（6 月・8 月・11 月・1 月） 受検費用は級に応じて 2.000～4.000 円　２級に合格した場合は国語に１単位増単できる。
履修にあたって	１時間１時間を大切にして、読む力・考える力をつけていきましょう。 毎週、漢字テストを行うので、丁寧に、投げ出さず、全回合格を目指しましょう！ 週間課題での問題集演習を習慣にしましょう。

令和２年度　年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	国語・国語総合（古典）	単位	2	履修区分	必履修　・必修　・選択
対象学年・類型・ｺｰｽ	１年　普通科・総合学科				
使用教科書	『 標準国語総合　』（第一学習社）				
副教材	新国語便覧（第一学習社）・　完全マスター古典文法（第一学習社）				
目標とする生徒の将来像	日本人が古くから親しんできた優れた文学作品を読むことで、日本古来のものの見方、感じ方、考え方に対する関心を深め、人生をより豊かにする糧にすると共に、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
評価の観点	①関心・態度・意欲：古典を読む力を高め、古典への理解や関心を深めようとしているか。 ②読む能力：古典に表された思想や感情を捉え、自分の考えを深め、発展させているか。 ③知識・理解：伝統的な言語文化・言葉の特徴などの理解を深め、知識を身に付けているか。				

学期	期間	単元･教材　◇古文◆漢文	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点･方法 ※テスト＝定期考査含	自己評価
1学期	**第１回定期試験まで** (試験 6/8～11)	◇古文入門 ・「児のそら寝」 ・古文を読むために①② 歴史的仮名遣い 現代語との違い ◇古文に親しむ ・「なよ竹のかぐや姫」 ・古文を読むために③ 用言の活用 ◆漢文入門 ・訓読に親しむ一二三 ・漢文を読むために①②③	・古文に親しみを持ち、話のおもしろさを理解し、正確に音読する。 ・歴史的仮名遣いに習熟し、古文の特徴を理解する。 ・話の構成や展開を把握し、登場人物の行動や心情を読み味わう。 ・用言の活用を理解する。 ・漢文に親しみを持ち、漢文を学習する意義を知る。 ・漢文を日本の文化に取り入れた先人の工夫（訓読）を理解する。	①　授業態度･ノート ②　音読・内容理解 ③　テスト	ＡＢＣ ＡＢＣ ＡＢＣ
2学期	**第２回定期試験まで** (試験 9/24～29)	◆故事成語 ・「五十歩百歩」 ・「矛盾」 ◆言語活動 ・故事成語の由来と意味を調べる ◇説話と随筆 ・徒然草 「つれづれなるままに」 「仁和寺にある法師」	・故事成語の意味等を理解する。 ・故事成語の意味と成り立ちを理解する。 ・副教材･図書館資料などを活用し、故事成語を調べ、発表する。 ・作者・兼好法師の人間、社会などに対する思想や感情を読み取る。	①　授業態度･ノート ②　音読・内容理解 ③　テスト	ＡＢＣ ＡＢＣ ＡＢＣ
	第３回定期試験まで (試験 11/30～12/3)	◇物語と日記 ・伊勢物語「筒井筒」 ・古文を読むために④ 助動詞・助詞 ◇和歌と俳諧 ・万葉-古今-新古今 ◆史伝を読む ・「完璧」	・歌物語における和歌の役割の理解と修辞技巧を理解する。 ・助動詞・助詞を理解し、口語訳に活かす。 ・和歌の優れた表現に親しむ。 ・漢文に慣れる。 ・史伝から生まれた故事成語を理解する。	①　授業態度･ノート ②　音読・内容理解 ③　発表・テスト	ＡＢＣ ＡＢＣ ＡＢＣ
3学期	**第４回定期試験まで** (試験 2/19～25)	◇物語と日記 ・土佐日記「門出」 ◆中国の思想 ・論語「学問」「仁」 ◆漢詩の鑑賞 ・唐詩　４編	・作者の置かれている状況を理解し、作者の思想や感情を読み取る。 ・中国の思想を代表する儒家思想の概略と孔子の考え方を知る。 ・作品を深く味わい、漢詩のきまりを理解する。	①　授業態度・ノート ②　音読・内容理解 ③　テスト	ＡＢＣ ＡＢＣ ＡＢＣ
履修にあたって	古典とは「昔の古い作品」ではなく、長い時を超えて、多くの人びとに感動を与え続けてきた本物の芸術作品です！真の芸術作品に触れて、人生を豊かにしましょう。				

教科年間シラバス　　詳細は授業にて指示

教科・科目	地理歴史・世界史A	単位数	2	必履修 ・ 必修 ・ 選択
学年・系列・コース	1年全学科全クラス			
使用教科書	明解　世界史A（帝国書院）	副教材	なし	
目標とする生徒の将来像	近現代史を中心とする世界の歴史を、諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解する。現代の諸課題を歴史的観点から考察し、歴史的思考を培う。国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
評価の観点	①授業への関心、意欲、態度および、授業内容を日本の歴史と関連付け、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現していること。（10%） ②諸資料の収集、有用な情報の選択、読み取り、図表などへのまとめ。（10%） ③近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。（80%）			

学期	単元・教材	主たる目標・つけたい力	評価の観点
1学期	1部　世界の一体化と日本 1章　前近代の諸文明 序　人類の始まり 1　東アジアの文明 2　南アジアの文明 3　東南アジアの文明 4　西アジア・北アフリカの文明 5　ヨーロッパの文明 6　南北アメリカの文明 7　ユーラシアの交流圏	・西アジア世界・イスラーム世界の特質の把握 ・ヨーロッパの風土と諸民族、ヨーロッパ世界の特質の把握。南アジア・東南アジアの風土と諸民族、南アジア世界・東南アジア世界の特質の把握。 ・東アジア・内陸アジアの風土と諸民族、国際体制、日本を含む東アジア世界の特質の把握。 ・ユーラシアの諸地域を結ぶ海と陸のネットワークの成長の把握。 ・モンゴル帝国の拡大とユーラシアの一体化の把握。 ・ヨーロッパにおける商業圏の発展や、日本を含む東アジア海域の交流圏の成長の把握。	①②③
2学期	2章　ユーラシアの交流 1　繁栄するアジア 2　大航海時代と新たな国家の形成 3章　欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1　ヨーロッパとアメリカの諸革命 2　自由主義・ナショナリズムの進展 3　アジア諸国の動揺 4　東アジアの大変動	・大航海時代の世界の一体化への動きの理解。ヨーロッパの主権国家体制の成立への理解。 ・産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立、自由主義と国民主義の進展、拡大する貿易活動を扱い、ヨーロッパ・アメリカにおける資本主義の確立と国民形成を理解する。 ・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況、植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、伝統文化の変容、その中での日本の対応を扱い、19世紀の世界の一体化とその特質を理解する。	①②③
3学期	2部　地球社会と日本 1章　現代社会の芽生えと世界大戦 1　現在につながる社会の形成 2　第一次世界大戦がもたらしたもの 3　民族自決を求めて 4経済危機から第二次世界大戦へ 2章　冷戦から地球社会へ 1　冷たい戦争の時代 2　冷戦終結への道のり 3　地球社会への歩み 4　持続可能な社会をめざして	・輸送革命、マスメディアの発達、企業や国家の巨大化、社会の大衆化と政治や文化の変容、公教育の普及と国民統合などを扱い、20世紀という時代の特質を人類的視野から把握できる。 ・第一次世界大戦と第二次世界大戦の原因や総力戦としての性格、それらが及ぼした影響を理解し、平和の意義などについて考察できる。 ・第二次世界大戦後の世界が抱える問題などについて考察できる。また1970年代以降の市場経済の世界化や地球規模での問題の出現を理解し、日本が世界の諸国、諸地域と多様性を認めあいながら共存する方向などについて考察する。 ・原子力の利用、情報科学など現代の科学技術の人類への寄与と課題、移民や女性・子どもなど様々な人々に関わる問題、地域紛争の原因とその歴史的背景などを追究し、人類の生存と環境、世界の平和と安全などについて考察するとともに、国際的な交流と協調の必要性に気付くこ	①②③

検定資格(時期) 諸費用(予定)	なし
履修にあたって	常になぜ・どうして、こういうことが起こったのだろうか。目的は何だったのかという疑問を持ち、いろいろな方法を使って考え、自分の意見や考え方を持つことができるようになることを期待します。

令和2年度シラバス（生徒配布用）

日本史Ａ

教科	地歴	単位数	2単位	学科・学年・コース	1年普通科・2年食品化学科・果樹園芸科選択者
使用教科書	高等学校日本史Ａ 第一学習社				
副教材等	なし（適宜、史・資料を配布）				

1　目標とする生徒の将来像

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け，現代の諸課題に着目して考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察できる。

2　評価の観点

①　定期試験
②　授業中の関心・意欲・態度・発問の観点等
③　単元ごとに実施する小テストなど

3　学習の計画（どのような内容を，どの時期に学ぶのかを含む。）

学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	第1回定期試験	第1章　近代国家の形成と国際関係の推移 第1節　近代への胎動 第2節　明治維新 第3章　近代国家の確立	・江戸時代の日本の対外関係について理解する。 ・近世後半の産業，教育や学問・思想などの発展について理解し，さらに，これらが近代文化の基盤となったことを理解する。 ・明治政府の初期の諸政策によって，近代日本の基礎が形成されたことを理解する。 ・明治政府の中央集権化・藩閥専制の傾向に対し，自由民権運動がおこり，国民の政治的関心が高揚し憲法制定・国会開設に至る，一連の動きを理解する。	定期試験 ノート提出	
1・2学期	第2回定期試験	第2章　近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 第1節　近代産業の発展と社会運動の展開 第2節　国民生活の変化と文化	・日清・日露戦争の過程で，日本に産業革命がおこり，資本主義が確立したことを理解する。 ・資本主義の発展によって産業構造が変化し，これにともない，都市における貧民問題や労働問題など，さまざまな社会問題が発生したことを理解する。	定期試験 ノート提出	
2学期	第3回定期試験	第3節　第一次世界大戦と日本	・第一次世界大戦に日本が参戦した意図，また第一次世界大戦を通	定期試験 ノート提出	

		第4節　第二次世界大戦と日本	しての日本の外交方針について理解する。・中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら，太平洋戦争に至る過程を理解する。		
3学期	第4回定期試験	第3章　現代の日本と世界 第1節　日本の再出発 第2節　独立後の政治と対外関係	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策，民主化の諸改革の内容について理解する。 ・主権回復後の日本の国内的な政治の推移と，新しい外交関係の確立の動きについて理解する。	定期試験 ノート提出	

3　検定資格（時期）・諸費用（予定）

特になし

4　履修にあたって

ただの暗記科目ではなく、「なぜ？」という歴史的な疑問を持って授業に臨むことが大切である。歴史が苦手な生徒でも、授業内での問いに積極的に答えることで、苦手を克服することができる。

令和２年度　年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	数学Ⅰ・A	単位	3･2	履修区分	必履修　・必修　・選択
対象学年・類型・ｺｰｽ	１年普通科				
使用教科書	数研出版　改訂版　新編数学Ⅰ・数研出版　改訂版　新編数学A				
目標とする生徒の将来像	数学を通して、様々なことに数学の能力を活用して、考察・表現する能力を高める。				
評価の観点	(1)定期試験 (2)日常の学習活動(①週末課題確認テスト②授業への参加③提出物④標準考査)				

学期	期　間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	第１回定期考査	数学Ⅰ　第１章 第１節 式の計算 第２節 実数 第３節 １次不等式 数学Ⅰ　第３章 第１節 ２次関数とｸﾞﾗﾌ	・数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また、多面的にみたり処理したりするとともに、１次不等式を事象雄の考察に活用できるようにする。 ・ｸﾞﾗﾌの意味を理解し、表現できるようにする。	・定期試験 ・授業小テスト ・授業への参加 ・提出物	A　B　C
2学期	第２回定期考査	数学Ⅰ　第３章 第２節 ２次関数の値の変化 第３節 ２次方程式と２次不等式 数学Ⅰ　第４章 第１節 三角比 第２節 三角形への応用	・２次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。 ・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識する。	・定期試験 ・授業小テスト ・授業への参加 ・提出物	A　B　C
	第３回定期考査	数学Ⅰ　第２章 数学A　第１章 第１節 場合の数 第２節 確率	・集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。 ・場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深める。	・定期試験 ・授業小テスト ・授業への参加 ・提出物	A　B　C
3学期	第４回定期考査	数学Ⅰ　第５章 数学A　第２章 第１節 平面図形 第２節 空間図形 数学A　第３章 第１節 約数と倍数 第２節 ﾕｰｸﾘｯﾄﾞの互除法 第３節 整数の性質の活用	・統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。 ・平面図形や空間図形の性質・整数の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	・定期試験 ・授業小テスト ・授業への参加 ・提出物	A　B　C
	検定資格（時期）諸費用（予定）	数学検定３級(3，000 円)準２級(3，500 円) 2･3 学期を予定			
	履修にあたって	数学に苦手意識を持っている生徒も多いと思います。高校の数学はすべて内容がつながっていますので、しっかりと復習をしておきましょう。特に基本的な計算は訓練をしておくことが大切です。			

令和２年度　年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	理科・物理基礎	単位	2	履修区分	(必履修)・必修　・選択
対象学年・類型・ｺｰｽ		１年・普通科			
使用教科書		東京書籍　「改訂　新編物理基礎」(物理 3)			
目標とする生徒の将来像	・興味・関心と探究心をもって自然の事物・現象を物理学的に考察できる生徒。 ・目的意識をもって観察・実験を行い，結果から新たな発見を見いだそうとする生徒。				
評価の観点	①　【関心･意欲･態度】 ・学習活動に積極的に参加したか。　・提出物の作成に意欲的に取り組んだか。 ②　【思考･判断】 ・物理学的思考の「過程」を行えているか。 ③　【実験の技能】 ・観察・実験を安全に遂行できたか。　・それぞれの操作の意味を理解し，正確にできたか。 ④　【知識･理解】 ・物理学について、基本的な知識を身につけることができたか。				

学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	**第１回定期試験**	1-1 章：直線運動の世界 速さ ～ 放物運動	・運動の表し方，相対速度，及び等加速度直線運動に関する基本的な概念や公式を学び，運動を解析する方法を身につけている。	①観察・提出物 ②観察・試験 ③観察・提出物 ④定期試験	A B C A B C A B C A B C
1学期 2学期	**第２回定期試験**	1-2 章：力と運動の法則 自由落下 ～ 1-2 章：力と運動の法則 抵抗力と浮力	・等加速度直線運動をもとにして，多くの複雑な運動の理解に至ることを知り，運動の多様性と簡単な解析の方法を習得し，考察できる。 ・物体にはたらいている力を正しく見いだし，運動方程式を立てることができる。 ・摩擦力，及び液体や気体から受ける力（圧力，浮力，抵抗力）について説明できる。	①観察・提出物 ②観察・試験 ③観察・提出物 ④定期試験	A B C A B C A B C A B C
2学期	**第３回定期試験**	1-2 章：力と運動の法則 仕事 ～ 力学的エネルギー	・仕事・仕事の原理・仕事率・エネルギーという基本的な概念を学び，力学的エネルギー保存の法則について成立条件を含めて知識を活用できる。	①観察・提出物 ②観察・試験 ③観察・提出物 ④定期試験	A B C A B C A B C A B C
3学期	**第４回定期試験**	2-1 章：熱 熱と仕事 ～ 2-2 章：波 振動する気柱	・熱力学の基本について学び，法則・公式を活用できる。 ・波動に関する事象・現象についての基本的な概念を形成している。	①観察・提出物 ②観察・試験 ④定期試験	A B C A B C A B C
	検定資格	なし			
	履修にあたって	答えより、なぜそのような答えを導き出せるのかといった過程に意味があります。公式や法則を丸暗記といった学習ではなく、なぜその公式を使うのか、どういった法則なのかを「説明できる」を目標に学習を行ってください。問題演習の際も、式と答えだけではなく、言葉でその式を使う根拠や、説明を加えるよう心がけましょう。		

令和２年度　年間シラバス

教科・科目	理科 生物基礎	単位	２	履修区分	必履修　・(必修)　・選択
対象学年・類型・ｺｰｽ	１年　普通科				
使用教科書	『改訂　生物基礎』東京書籍（生基３１１）				
副教材	四訂版　リードLightノート　生物基礎				
目標とする 生徒の将来像	遺伝子・健康・環境など，日常生活や社会とのかかわりを考えるために必要な科学的素養を高める。				
評価の観点	①【関心・意欲・態度】生物や生物現象について関心をもち、意欲的に考えるとともに、科学的な見方や考え方を身につける。 ②【思考・判断・表現】生物や生物現象を科学的に考え、的確に説明する。 ③【観察・実験の技能】生物や生物現象について観察・実験の基本操作を習得する。 ④【知識・理解】生物や生物現象について、基本的な知識を身につける。				

学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法 ※テスト＝定期考査含	自己評価
1学期	**第１回定期試験**	・生物の多様性と共通性	・生物の基本単位は細胞であること、また、その基本的な構造を理解する。	①②④ノート・発言 ④テスト	A B C A B C
		・生命活動とエネルギー	・生命活動に必要なエネルギーはATPに含まれる化学エネルギーが利用されることを理解する。	①授業態度の観察等 ②③実験レポート （酵素の実験） （細胞の観察）	A B C A B C
	第２回定期試験	・生物と遺伝子	・遺伝子の本体がDNAであることを理解する。	①②④ノート・発言 ④テスト	A B C A B C
		・遺伝情報の分配	・体細胞分裂の過程において遺伝情報が均等に分配されることを理解する。	①授業態度の観察等 ②③実験レポート （DNAの抽出実験）	A B C A B C
		・遺伝情報とタンパク質の合成	・DNAの遺伝情報がRNAに移され(転写)、RNAの塩基配列がタンパク質のアミノ酸配列に変換されること（翻訳）を理解する。	（体細胞分裂）	
2学期	**第３回定期試験**	・体内環境	・体液と細胞との間で物質がやり取りされることで､体内環境が一定に保たれていることを理解する。	①②④ノート・発言 ④テスト	A B C A B C
		・体内環境を維持するしくみ	・自律神経系による調節と内分泌系による調節について学ぶ。	①授業態度の観察等 ②③実験レポート （交感神経のはたらきを調べる）	A B C A B C
		・免疫	・病原体などの体内への侵入を防ぐしくみや白血球による食作用によって病原体から身を守る免疫というしくみがあることを学ぶ。		
	第４回定期試験		・植生は、年降水量と年間平均気温によって決まることを理解する。 ・植生の遷移について理解する。 ・バイオームと気候の関係について学ぶ。 ・日本のバイオーム(亜熱帯多雨林、照葉樹林、夏緑樹林、針葉樹林）について学ぶ。	①②④ノート・発言 ④テスト ①授業態度の観察等	A B C A B C A B C
	履修にあたって	授業で指示された問題は必ず解けるようにする。 いつも「なぜ？」いう疑問は持ち続け、自分で調べる。 問題集の問題は、完全に理解できるまで繰り返し解く。 定期試験、模擬試験の問題は必ず取って置き、間違えたところは必ず出来るようにする。			

令和２年度　年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	保健体育・体育	単位	3	履修区分	(必履修)・必修　・選択
対象学年・類型・ｺｰｽ	１年普通科				
使用教科書	なし				

目標とする生徒の将来像	・時間やルールを厳守し、率先して与えられた役割を確実にこなそうとする、責任感のある生徒。 ・運動の技能や知識を身につけ、高めていくために努力を継続することができる生徒。 ・積極的に活動に参加し、自己表現や他者への配慮などのコミュニケーションをとろうとする、信頼できる生徒。
評価の観点	①【関心･意欲･態度】 時間やルールを守ることや、仲間とともに積極的に活動へ参加しようとしているか。 ②【思考･判断】 技能の向上のために、工夫したり、仲間と協力したりしているか。 ③【技能】 自己の身体を思い通りに扱い、正確な技能が発揮できているか。 ④【知識･理解】 技能が向上するための身体動作や運動の特性を理解し、知識を理解しているか。

学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	**第１回定期考査**	・体つくり運動（体力を高める運動、集合、整頓、列の増減､集団としての行動）	・基礎的な運動能力を身につける ・大きな声を出すとともに、迅速に集団としての協調的な動きができるようになる。	①観察 ②観察 ③テスト ④観察	A B C A B C A B C A B C
		・バレー（男子） ・ソフトボール（女子）	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C
2学期	**第２回定期考査**	・ペース走	・自己に適したペースを維持して走ったり、ペースの変化に対応して走ったりする。徐々に記録を向上させる努力をする。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C
	第３回定期考査	・マット運動（男子） ・ダンス（女子）	・マット運動 基本的な技や発展技をなめらかに安定して行う。技を構成し演技をする。 ・ダンス 仲間と踊る楽しさや喜びを味わい、表現力や動きの質を高めて、交流や発表ができるようにする。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C
3学期	**第４回定期考査**	・サッカー（男子） ・バスケ（女子） ・体育理論	・サッカー、バスケ 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、作戦や状況に応じた技能や仲間と連携した動きを高めてゲームが展開できる。 ・体育理論 生涯豊かなスポーツライフを送る上で必要となるスポーツに関する科学的知識を身につける。	①観察 ②観察 ③テスト ④ワークシート	A B C A B C A B C A B C
	検定資格（時期） **諸費用（予定）**	なし			
	履修にあたって	チャイム前には整列をし、大きな声で挨拶・体操をするところから体育の授業は始まります。お互いに 100％で授業に臨みましょう。			

令和２年度　年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	保健体育・保健	単位	1	履修区分	(必履修)・必修　・選択
対象学年・類型・ｺｰｽ	１年普通科				
使用教科書	現代高等保健体育・現代高等保健体育ノート				
目標とする生徒の将来像	・健康問題に対して、課題解決をするために、自ら考え、発表したり記述したりできる生徒。 ・生涯にわたって健康を保持増進することができる知識を身につけ、それを活用することができる生徒。				
評価の観点	①【関心･意欲･態度】 健康問題に対し、興味・関心を持ち、個人であるいは仲間とともに積極的に課題解決をしようとしているか。 ②【思考･判断】 健康問題を解決するために、個人であるいは仲間とともに工夫したり、協力したりし、考えを見いだしているか。 ③【知識･理解】 健康問題やそれを解決するための知識を理解し、発言したり記述したりしているか。				

学期	期間	単元・教材	主たる目標・付けたい力	主たる評価の観点・方法	自己評価
1学期	**第１回定期考査**	・私たちの健康のすがた ・健康のとらえ方 ・健康と意志決定･行動選択 ・健康に関する環境づくり ・生活習慣とその予防 ・食事と健康 ・運動と健康 ・休養･睡眠と健康	・健康のとらえ方や病気、生活習慣の改善について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。	①観察 ②観察 ③テスト	Ａ Ｂ Ｃ Ａ Ｂ Ｃ Ａ Ｂ Ｃ
2学期	**第２回定期考査**	・現代の感染症 ・感染症の予防 ・性感染症･エイズとその予防 ・喫煙と健康 ・飲酒と健康 ・薬物乱用と健康 ・応急手当の意義とその基本 ・心肺蘇生法 ・日常的な応急手当	・感染症や薬物乱用、応急手当について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。	①観察 ②観察 ③テスト	Ａ Ｂ Ｃ Ａ Ｂ Ｃ Ａ Ｂ Ｃ
3学期	**第４回定期考査**	・欲求と適応機制 ・心身の相関とストレス ・ストレスへの対処 ・心の健康と自己実現 ・交通事故の現状と要因 ・交通社会における運転者の資質と責任 ・安全な交通社会づくり	・ストレスやその対処の仕方、交通安全について、理解し、理解したことを発言したり記述したりする。	①観察 ②観察 ③テスト	Ａ Ｂ Ｃ Ａ Ｂ Ｃ Ａ Ｂ Ｃ
	検定資格（時期）諸費用（予定）	なし			
	履修にあたって	現在や将来の日常生活をよりよく生活をしていくために必要な内容を学習します。発言やグループワークなども積極的に行い、主体的に授業に臨みましょう。			

令和２年度　年間シラバス（生徒配布用）

教科・科目	家庭・家庭基礎	単位	2	履修区分	(必履修)・選択
対象学年・類型・ｺｰｽ	１年・普通科				
使用教科書	新家庭基礎　未来へつなぐパートナーシップ				
目標とする生徒の将来像	人の一生、子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉、食生活、衣生活、住生活、消費生活、環境などに関する知識と技術を総合的に習得し、生活における課題を見つけ、自ら解決する力を身につけるとともに、実践的な学習を通して、家庭生活の充実向上をめざし、実現できる力をつけます。				
評価の観点	【関心・意欲・態度】生活に関心をもっているか。意欲的、積極的に課題解決しようとしているか。 【思考・判断・表現】家庭や地域の生活について見直し、課題をみつけ、その解決を目指して、学んだ知識・技術を生かしたいくつかの方法を比較検討し、意思決定をするなど工夫し創造しているか 。まとめて表現できる技術などの技術を応用発展させ、その成果を適切に表現しているか。 【技能】家庭や地域の生活に関する基礎的･基本的な技術を習得しているか。調査・観察などの技術を身につけているか。 【知識・理解】人間の発達と生活の営みとのかかわり、家族・家庭生活の意義、家庭生活の各分野に関する基礎的・基本的な知識などについて、断片的にではなく実際の生活の充実向上に役立つよう総合的に理解しているか。				

学期	期間	単元・教材名	主たる目標	評価の観点
1学期	**第１回定期試験**	１章人と関わって生きる 生き方・子どもを知る 生活・発達・親になる	人の一生を生涯発達の視点で捉える。共に支え合って生活する重要性を理解する。 子どもを産み育てることの意義を知る。	【知・理】 【関・意・態】
	第２回定期試験	１章食生活をつくる 栄養と食品の関わり 食品の選び方と調理	より良い食生活について考える。 健康で安全な食生活を営むために必要な栄養素の基本的知識を習得する。食品の栄養的特徴と調理上の性質を理解し、基本的な技術と知識を習得する。	【知・理】 【思・判・表】 【関・意・態】 【技】
2学期	**第３回定期試験**	３章高齢者とかかわる ４章社会と関わる ３編消費者として自立する 関わり･計画・環境	高齢期の特徴と高齢社会の課題について理解する。地域社会での役割について考える。 自らも消費者であることを理解し、消費に関する正しい情報を得られる力を身に付ける。	【知・理】 【関・意・態】 【思・判・表】
	第４回定期試験	３章住生活を作る 住居平面図 これからの住まい	住宅の種類や住空間の構成について理解し、ライフスタイルにあった住居の選択ができる。生活行為と住空間の種類、広さ、配置などの基本的な考え方を知り、平面図を作成する。	【関・意・態】 【技】
3学期		２章衣生活を作る 関わり、素材・管理・環境 全ての人が快適な衣生活 衣服の形・ﾃﾞｻﾞｲﾝ・実習	衣生活の変化、現状や問題点を把握し、自らの衣生活と結びつけて学ぶ。エプロン製作を通じて裁縫道具･ﾐｼﾝの扱い方、ボタン付け等ができるようにする。	【知・理】 【関・意・態】 【思・判・表】
	検定資格（時期）・諸費用（予定）	全国高等学校家庭科食物調理技術検定４級（前期７月・800 円） 前期で不合格だった場合、希望者は後期試験（後期１月・800 円）受験可能 次年度、食文化 選択者は３級受験予定のため、本授業にて４級を必ず取得すること。		
	履修にあたって	・講義、調理・被服製作実習、体験学習、調査・研究、ホームプロジェクトなどの学習を通して、社会のさまざまな現象についてより深い理解と関心を高め、生活に生きて働く力をつけていきたいと思います。 ・授業は、みなさんが主役です。自分の意見をしっかりもち、仲間の意見には耳を傾け、真面目に主体的に取り組みましょう。発展学習にも積極的に挑戦し取り組みましょう。		

令和2年度シラバス	外国語 （英語）	山梨県立笛吹高等学校

科目	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	3単位	学年	1年	学科	普通科・総合学科	コース	－
使用教科書	NEW FLAG English Communication Ⅰ					コード	177増進堂 コⅠ347		
副教材等	NEW FLAG English Communication Ⅰ Workbook、フレーズで英単語3000（CD付き）								
学習の到達目標	・英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の工夫をしながら伝える能力を養う。具体的な言語活動は以下の通り。 ア．英文を読み、書かれている内容を理解し、その内容を簡潔にまとめることができる。 イ．英語での対話や説明文などを聞いて、その概要をつかむことができる。 ウ．学んだことや経験したことをもとに、自分の意見を相手に伝えたり、相手の意見を理解することができる。 エ．得た情報や自分の考えについて、簡単な文章で書き表すことができる。								
評価方法	定期試験80％ ／ 観点20％（①提出点・②授業態度）								

学期	考査	単元名	学習到達目標と評価のポイント	Can-do リスト	評価方法
1学期	第1回定期考査	Lesson 1 Get Your Goal with English	○世界に英語を話す人はどのくらいいるのかわかる。 ○本田圭祐さんの夢の実現にむけてのプロセスがわかる。 ○佐藤真海さんが，実際どんな逆境に遭遇したのか，それをどのように克服していったのかを読み取ることができる。 ○現在形・過去形に対して，未来の表現がどう違うのかを理解させる。 ○SVO とSVC の違いを理解させる。	【読】Grade 2 【聞】Grade 3 【書】Grade 3 【話】Grade 2	定期考査および①②
		Lesson2 Around the world	○世界を一周した人物について読み取れる。 ○世界一周にはどのような手段があったのか理解できる。 ○SVOCの文型を理解し、活用することができる。	【読】Grade 3 【聞】Grade 3 【書】Grade 3 【話】Grade 2	
		Lesson 3 How our brain works	○音読時と黙読時の脳の働きの違いについて読み取ることができる。 ○英語を音読することの脳科学的な意義を理解することができる。 ○動名詞、SVO、比較表現、to不定詞（副詞用法）を理解し、活用することができる。	【読】Grade 4 【聞】Grade 4 【書】Grade 4 【話】Grade 3	
	第2回定期考査	Lesson 4 My Cool Japan	○海外の人々の日本文化についての意見を読み取ることができる。 ○身近にある日本の良さについて考え、表現することができる。 ○海外の人々の意見を読み取ることで日本の文化や習慣を再認識できる。 ○名詞を修飾する節，形容詞用法のto 不定詞，現在完了，受け身の表現を用いた文の意味を理解し、活用できる。	【読】Grade 4 【聞】Grade 4 【書】Grade 4 【話】Grade 4	定期考査および①②
		Lesson 5 The History of Ice Cream	○アイスクリームの起源について読み取ることができる。 ○今日のアイスクリームに至るまでの経緯が理解できる。 ○〈 SVO＋to 不定詞〉，分詞の後置修飾，〈It is ～（for－）＋ to 不定詞…〉を用いた文の意味を理解し，活用することができる。	【読】Grade 5 【聞】Grade 5 【書】Grade 4	
2学期	第3回定期考査	Lesson 6 The Hands	○デューラーとハンスが，将来に向けてお互いのことをどのように考えているのかを考え、表現することができる。 ○デューラーが美術学校へ行き，ハンスが炭坑で働くようすが理解できる。 ○デューラーがハンスの悲惨な状況を知り，どういった思いを抱いたのかを理解できる。 ○ハンスが，デューラーのために自らを犠牲にしたときの行動を理解できる。	【読】Grade 5 【聞】Grade 5 【書】Grade 5	定期考査および①②
		Lesson 7 Sowing the Seeds of Hope	○サンゴの移植活動に取り組んでいる金城浩二氏の，心身を労して取り組む姿勢を読み取ることができる。 ○過去完了，関係代名詞what，SVOC（C ＝原形不定詞），助動詞の受け身を用いた文の意味を理解し，活用できる。 ○環境保全のために個人として何ができるかを考え表現することがで	【読】Grade 5 【聞】Grade 5 【書】Grade 5	
		Lesson 8 English or Kanji?	○「英漢字」とは何か，それが成功に至るまでの國重氏の苦労を読み取ることができる。 ○自分なりに何かを創り上げること，創造力を持って物事に取り組むことの大切さがわかる。 ○分詞構文，関係副詞when，強調構文，「使役動詞have〔has〕＋目的語（人・物）＋過去分詞」を用いた文の意味を理解し，活用できる。	【読】Grade 5 【聞】Grade 5 【書】Grade 5 【話】Grade 5	
3学期	第4回定期考査	Lesson 9 One-Way Mission to the Red Planet	○火星は最も地球に似ている惑星で地球化に最適であることがわかる。 ○マーズ・ワンによるプロジェクトが，具体的にどういったものか理解できる。 ○火星に住むことを想像して，自分の考えを相手に伝えることができ	【読】Grade 5 【聞】Grade 5 【書】Grade 5 【話】Grade 5	定期考査および①②
		Lesson 10 Gratitude for Life	○手塚治虫がマンガを通じて伝えたかったことを考えることができる。 ○過去完了の受け身，関係副詞where を用いた文の意味を理解し，活用できる。 ○相手についてインタビューをし、相手のことを深く知ることができる。	【読】Grade 5 【聞】Grade 5 【書】Grade 5	

評価の観点	・関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。 ・表現の能力 日常的な話題について，情報や考えなど伝えたいことを英語で話したり，書いたりして表現する。 ・理解の能力 日常的な話題について，英語を聞いたり読んだりして，情報や考えなど相手が伝えようとすることを理解する。 ・知識・理解 日常的な話題についての英語の学習を通して，言語やその運用についての知識を身につけるとともに，その背景にある文化などを理解している。

令和2年度シラバス	外国語 （英語）	山梨県立笛吹高等学校

科目	英語表現Ⅰ	単位数	1単位	学年	1年	学科	普通科・食品化学・果樹園芸科
使用教科書	BIG DIPPER English Expression Ⅰ					コード	104数研出版　英Ⅰ／333
副教材等	BIG DIPPER English Expression Ⅰ　ワークブック						
学習の到達目標	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。 具体的言語活動は次の通り。 ア　与えられた話題について，即興で話す。また，聞き手や目的に応じて簡潔に話す。 イ　読み手や目的に応じて，簡潔に書く。 ウ　聞いたり読んだりしたこと，学んだことや経験したことに基づき，情報や考えなどをまとめ，発表する。						
評価方法	定期試験80%／　日常の学習活動20%（①授業小テスト・②授業活動への参加・③英単語テスト・④標準考査・⑤提出物）						

学期	考査	単元名	主な学習内容と評価のポイント（☆重点項目）	Can-do リスト	評価方法
1学期	第2回定期考査	はじめに①～③ Lesson1 ～ Lesson3	・英語は(S V ~)の語順であることを理解し、天候を表す場合にはItを使うことを理解し、活用できる ・様々な動詞や、There is (are)~を使うことができる ・伝えたい内容を、適切な意味を持つ動詞を用いて英語で表現できる ・動詞の活用を理解し、活用できる ・名詞の複数形、数えられない名詞、冠詞を適切に使うことができる ・名詞の数や、数えられるか、特定のものであるかなどを意識して英語で表現できる	【読】Grade 2 【聞】Grade 2 【書】Grade 2 【話】Grade 3	①②③④⑤
2学期	第2回定期考査	Lesson4 Lesson5	・肯定文、否定文、疑問文を作ることができる ・「～である(ない)」「～ですか(しますか)」などを英語で表現できる ・現在形、現在進行形、過去形、過去進行形の文を作ることができる ・「～する(している)」｛～した(していた)」などを英語で表現できる	【読】Grade 2 【聞】Grade 2 【書】Grade 2 【話】Grade 3	
2学期	第4回定期考査	Lesson6 Lesson7	・will, be going to ~などの未来を表す形を使うことが出来る ・未来の予定や計画などについて、英語で表現できる ・現在完了形、過去完了形を適切に使うことが出来る ・現在、過去における完了、継続、経験の意味を英語で表現できる	【読】Grade 2 【聞】Grade 2 【書】Grade 2 【話】Grade 3	
3学期	第4回定期考査	Lesson 8 Lesson 9	・can,may,mustを用いた文を作ることが出来る ・能力、許可、推量などの意味を英語で表現できる ・should , must や助動詞＋have ＋過去分詞の形を使うことができる ・必要、義務や過去についての推量、後悔などを英語で表現できる	【読】Grade 2 【聞】Grade 2 【書】Grade 2 【話】Grade 3	
3学期	第4回定期考査	Lesson 10	・主語＋動詞に続く語の関係を理解して、文を作ることができる ・「～は…になる」「～に…を与える」「～を…にする」などを英語で表現できる	【読】Grade 2 【聞】Grade 2 【書】Grade 2 【話】Grade 3	

評価の観点	・関心・意欲・態度 コミュニケーションに関心をもち，積極的に言語活動を行い，コミュニケーションを図ろうとする。 ・表現の能力 事実や意見など多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら英語で伝えている。 ・理解の能力 英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確にことを理解する。 ・知識・理解 英語やその運用についての知識を身につけるとともに，その背景にある文化などを理解している。

県立笛吹高等学校

令和２年度シラバス

音　楽　Ⅰ

教　　科	音楽Ⅰ	単位数	２単位	学科・学年	普通科・農業科１学年、総合学科２学年
使用教科書	MOUSA1（教育芸術社）				
教　材　等	ミュージック・ノート				

１　学習の到達目標

・表現及び鑑賞の幅広い活動を通して，生涯にわたって音楽を愛好していこうとする心情や態度を育む。
・「音楽を形づくっている要素や要素の働きを知覚・感受し，イメージや表現意図をもって音楽表現する。
・中学校における音楽学習を踏まえ，生涯にわたり豊かな音楽活動を行っていくための創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。
・日本及び世界の様々な音楽にふれ，楽曲そのものだけでなく，広い視野で音楽を捉えられるようにする。

２　科目の特色（目標を実現するための重要点を含む。）

音楽Ⅰでは，生涯にわたって音楽に親しんでいくための基盤となる力を育てたい。そのために第一は，音楽の授業において自ら学ぶ態度と方法を身につけることを目指す。第二には，自分の知っている曲や興味のあるアーティストだけではなく，世界の様々な音楽に親しませ，広い音楽的視野を身につけさせることを目指す。どのような音楽にもよさやおもしろさがあり，背景となる文化や社会と密接にかかわりながら発展してきたことを気づかせたい。教材や活動を教師の側から示すだけでなく，生徒自らの発想で学習活動を展開する工夫を取り入れていく。

３　学習の計画（どのような内容を，どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
４月	オリエンテーション	校歌 少年時代　ほか	様々な表現方法による歌唱活動に関心を持ち演奏効果を生かして歌うことに主体的に取り組む。	ノート他
５月	バロックの音楽	グレゴリオ聖歌 合奏協奏曲　ほか	様々な時代の音楽や作曲家の特徴，楽器の音色等表現上の効果に関心を持ち，その文化的･歴史的背景を踏まえて鑑賞することに主体的に取り組む。	鑑賞の記録
６月	音符と休符 音名と譜表	楽典	音楽の基本的知識について理解し、音楽表現の興譲に結びつける。	小テスト
	三味線	さくらさくら お江戸日本橋	三味線の音色や奏法の特徴を生かして、技能を身につけ表現を工夫する。	実技テスト
７月	イタリア歌曲	Caro mio ben O sole mio	曲想と歌詞の内容，楽曲の背景と関わらせて，イメージを持って音楽表現するために，必要な歌唱技能を身につけ，創造的に表現する。	実技テスト
９月	日本の歌から	故郷 この道　ほか	曲想と歌詞の内容，楽曲の背景との関わりに関心を持ち，それらを生かして歌うことができる。	発表
10月	古典派の音楽	古典派の作品	様々な時代の音楽や作曲家と，その文化的・歴史的な背景を踏まえて鑑賞する	鑑賞の記録
11月	音名，演奏の形態	楽典	音楽の基本的知識について理解し，音楽表現の向上に結びつける。	テスト
12月	合奏	リコーダーほか	名楽器の音色や奏法の特徴を生かし仲間と協調性，積極性をもって，完成度の高い音楽表現を工夫する。	発表
１月	ドイツ・リート	野ばら	曲想と歌詞の内容，楽曲の背景と関わりに関心をもち，それらを生かして歌うことができる。	実技テスト
２月	リズム	テキスト	音楽を形作っている要素に興味をもち，理解・体現することができる。	実技テスト
３月	ロマン派の音楽	ロマン派の作品	様々な時代の音楽や作曲家と、その文化的・歴史的な背景を踏まえて鑑賞する。	鑑賞の記録

４　特に強調しておきたい点（留意すべき点・担当者からのメッセージを含む。）

(1)音楽のジャンルには声による多様な表現があることを知り，曲種に応じた発声による歌唱表現のおもしろさを体験する。
(2)音楽を形づくっている要素が楽曲を特徴づけるのにどのような役割をしているかを，創作や鑑賞活動を通して理解する。
(3)言語の特性と詩や曲に込められた作者のメッセージを感じ取りながら，様々な言語による表現や活動を行う。
(4)音楽が文学や絵画などの諸芸術と結びつきながらどのように発展してきたかを視覚的に捉えながら学ぶ。
(5)日本の伝統音楽や世界の各地域の諸民族の音楽の形成過程を歴史や地域からたどる。

５　評価規準　評価は、以下の観点から行います。

音楽への関心・意欲・態度	音楽活動の喜びを味わい，音楽や音楽文化に関心をもち，主体的に音楽表現や鑑賞の学習に取り組もうとする。
音楽表現の創意工夫	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受しながら，音楽表現を工夫し，表現意図をもっている。
音楽表現の技能	創意工夫を生かした音楽表現をするための技能を身に付け，創造的に表している。
鑑賞の能力	音楽を形づくっている要素を知覚し，それらの働きを感受しながら，解釈したり価値を考えたりして，音楽に対する理解を深め，よさや美しさを創造的に味わっている。

県立笛吹高等学校

令和２年度シラバス

美術I

教　　科	美術	単位数	単位２	学科・学年	普通科・食品化学科・果樹園芸科１学年　総合学科２学年
使用教科書	美術１（光村図書）			副 教 材 等	

1　学習の到達目標

① 対象や事象を捉える造形的な視点を理解し、意図に応じて表現方法を創意工夫して創造的に表現できる力を養う。
② 造形的な美しさ、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練られる力を身につける。
③ 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、感性を高め、美術文化に親しむとともに心豊かな生活や社会を創造していく態度を育てる。

2　科目の特色（目標を実現するための重要点を含む。）

美術の幅広い創造活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てる。感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、自然と美術とのかかわり、生活や社会を心豊かにする美術の働きや美術文化についての理解を深める。

3　学習の計画（どのような内容を，どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目（　　）	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
４ 月	鑑賞 絵画	人はなぜ描くのだろう(5- 7) 身近なものを描く(8-9)	オリエンテーション（年間の予定、学習の心構え。） 鉛筆で静物を描く（ものをよく観察し丁寧に描く。）	制作の取組み ワークシート
５ 月	絵画	風景を描く(12-13) 自己を描く(24-25)	油彩画「自分がいる風景」（写真画像を活用し） ・時間内に仕上げることを意識できているか。	下絵 制作の取組み
６ 月	絵画 鑑賞	風景を描く(12-13) 自己を描く(24-25)	・油絵の特徴と技法を理解し、イメージを表現できているか。・作品意図を言葉で伝えることができるか。	ワークシート 発表
７ 月	デザイン 鑑賞	情報伝達デザイン（42-43） アクリルで描く（72-73）	ピクトグラムをつくる（伝達するマークの役割） ・作品意図を言葉で伝えることができるか。	ワークシート 発表
９ 月	彫刻	土から生まれる彫刻(28-29) 塊から掘り出す（30-31）	抽象表現による立体をつくる （内面のイメージから発想し、自分の主題を設定する）	 下絵
10 月	彫刻 版画	土から生まれる彫刻(28-29) 版の表現(18-19)	・作品意図を言葉で伝えることができるか。 ドライポイントで版画をつくる	発表 制作の取組み
11 月	映像メディア表現	絵や写真を動かす(58-59)	ピクシレーションでありえない動きを表現する （自由な発想で斬新なアニメーションをつくる）	ワークシート 発表
12 月	デザイン デザイン	文字とデザイン(38-39) 情報伝達デザイン(42-43)	新しい言語をつくる（符号や記号の持つ役割や目的） キャラクターデザイン（伝達デザインと生活の豊かさ）	制作の取組み ワークシート
１ 月	絵画・彫刻	人はなぜ、描き、つくるのだろう(5- 7)	今の私をかたちつくる（自分自身で主題を設定し、作品づくりを通して自分を見詰める。）	ワークシート 制作の取組み
２ 月	絵画・彫刻 鑑賞	人はなぜ、描き、つくるのだろう(5- 7)	（作品を展示し、主題と表現の工夫について相互鑑賞し感想や振り返りをする。）　映画の鑑賞	発表 感想文提出

4　評価規準

評価は、次の４つの観点から行います。

関心・意欲・態度	美術の創造活動に喜びを味わい、多様な表現方法や美術文化に関心をもち、美的感覚や価値観をはぐくみ、主体的に表現や鑑賞活動を愛好している。
発想や構想の能力	感性や想像力を働かせて、感じ取ったことや考えたこと、目的や機能、美しさなどから豊かなイメージを創出し、創造的な表現の構想を練っている。
創造的な表現の技能	よさや美しさを求め、新しい意味や価値をつくり出すことで主題生成し、意図に応じて材料や用具の特性を生かし表現を工夫している。
鑑賞の能力	美術作品などを様々な観点から鑑賞して、自然や社会と美術との関係、日本及び諸外国の美術文化などに興味・関心をもち探求している。

県立笛吹高等学校

令和２年度シラバス

書道Ⅰ

教　　科	書道Ⅰ	単位数	２単位	学科・学年	普通科・食品化学科・果樹園芸科１学年　総合学科２学年
使用教科書	書Ⅰ　（光村図書）				
副教材等	書道用具・プリント・半紙・半切・印材・色紙・カレンダー				

1　学習の到達目標

生涯にわたって芸術を愛好する心情を育む。書道の様々な活動を通して、生活に根ざした「書」を意識し、実用的な書を身につけることで、美に関する感性を高め、芸術的な能力を伸ばす。文字を書く事の楽しさ、特に漢字に対する意識を高める。

2　科目の特色（目標を実現するための重要点を含む。）

文字とは最も身近で、生涯付き合うものである。そのため各自の名前をはじめ、身近にある言葉や自分の思いを表す言葉を選び、綺麗な字を学ぶと同時に、芸術性を高める実用的な文字の表現方法を学ぶ。書のみではなく、書に携わる篆刻や、暮らしに活かせる書作品を作る事で、学び楽しむ要素を取り入れ、個性にあった文字や作品を見つけていく。

3　学習の計画（どのような内容を，どの時期に学ぶのかを含む。）

月	単元名	使用教科書項目	主な学習活動（指導内容）と評価のポイント	評価方法
４月	書へのいざない	○書道の世界へ	○書写と書道の共通性と相違を理解する。 ○文房四宝の重要性と表現の関係を学ぶ。	・参加状況 ・態度・提出物
５月 ６月 ７月 ８月	漢字の書の学習	○楷書の古典を学ぼう ・孔子廟堂碑に学ぶ ・九成宮醴泉銘に学ぶ ・顔氏家廟碑に学ぶ ・牛橛造像記に学ぶ	○臨書学習により基本的な点画や線質の表し方、執筆法・運筆法を学ぶ ○古典の鑑賞により多様な表現を理解する。 ○作品の特徴、時代、人物について理解する。 ○創作の手順を理解し、自分で選んだ詩文を創作する	・参加状況 ・態度・提出物 ・相互評価
９月 10月	漢字の書の学習	○行書の古典に学ぼう ・蘭亭序に学ぶ ・風信帖に学ぶ ・争坐位稿に学ぶ	○臨書学習により基本的な点画や線質の表し方、用筆法・運筆法を学ぶ ○古典の鑑賞により多様な表現方法・字形の崩し方を理解する ○作品の特徴・時代・人物について理解する。 ○創作の手順を理解し、自分で選んだ詩文を創作する	・参加状況 ・態度・提出物 ・相互評価
11月	生活の書	○くらしの中の書 ・カレンダー、年賀状制作	○生活の中に溶け込む作品について学習し、創作する	・参加状況 ・態度・提出物
12月	篆刻の学習	○篆刻の学習	○篆刻の用具・用材・形状について理解する ○落款について、その用途・効果について理解する	・参加状況 ・態度・提出物
１月 ２月	仮名の書の学習	○仮名の学習 ・高野切第一種を学ぶ	○仮名の成立や仮名の種類について理解する ○仮名の基本的な線、運筆について理解する	・参加状況 ・態度・提出物
３月	漢字仮名交じりの書	○漢字仮名交じりの書 ・創作作品制作 ・発表	○漢字仮名交じりの書を創作する。 ○身近な文章を書芸術として表現する ○創作作品の発表を行い相互作品に対する芸術としての視点を学習する	・参加状況 ・態度・提出物 ・相互評価

4　評価規準

A 関心・意欲・態度	30　%	①　独特な技法に関心を持ち、積極的に表現技法を高めようとする。 ②　自発的な意図から作品の効果を高める工夫をし、取り組む。また、意欲的・主体的に活動を行い構想から完成までの充実感や表現する喜びを味わおうとする。 ③　目的や用途に即して、実用的・芸術的な表現を自ら楽しんでいる。
B 思考・判断	20　%	①　自己の構想に適した古典作品を選ぶことができる ②　用具・用材の特性をふまえた表現効果を生かし、表現に応じた用具・用材を選択している
C 表現・処理	30　%	①　基本的な点画や線質の表し方と用筆・運筆の関係を把握している。 ②　字形や構成を理解し、創造的な表現につなげている。 ③　意図に基づく表現の構想と工夫がされている。
D 知識・理解	20　%	①　用具・用材と表現することの基本的な関係を理解している。 ②　鑑賞を通して、作品の美しさや良さ・違いを感じ取れる。